

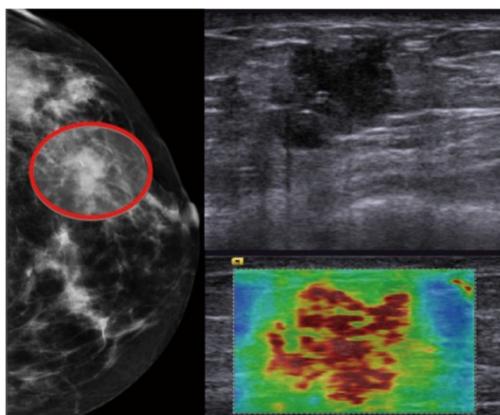
シーメンス製ハイエンド超音波画像診断装置 5 台を 国内で初めて導入し、稼働を開始しました。

現在、日本人を含むアジア人で 50 歳以下の女性のうち約 80%の方が高濃度乳腺と言われていま
す*。高濃度乳腺とは、乳腺組織が乳房内にどれだけ存在（発達しているか）するか、その割合
を指します。米国では最近、高濃度乳腺の場合「マンモグラフィ検査に向いていない」「マン
モグラフィ検査では見つけにくい」ということが話題になっており、検診に超音波検査を加え
ていこうという流れがあります。日本国内でも、40 代の女性を対象に乳がん検診においてマン
モグラフィ検査と超音波検査の併用が有効かどうか検証する比較試験がおこなわれ、その初期
報告の中で、マンモグラフィに超音波を加えることで発見率の向上が見られることが示されま
した。従って、今後、乳がん検査における超音波の重要性はさらに増していくと考えられます。

そこで当院では、国内で初めてシーメンス社製ハイエンド超音波画像診断装置を 5 台導入いた
しました。この装置には、しこりの形状や血流情報だけでなく、「硬さ」を画像化・数値化する
ことができる機能を搭載されています。一般的に、マンモグラフィや超音波による画像検査
で乳がんを疑われた場合、細胞の一部を採取して行う病理検査で確定診断を行います。 「硬
さ」の情報が加わることにより、不要な病理検査を減らすことができます。

また、体位を変えることなく瞬時に検査ができるため、患者さんにとって身体的・精神的な負
担も少なく、さらに精度の高い診断に貢献します。

* F.Boyd et al, The New England Journal of Medicine 2007;356:227-36



左：マンモグラフィ画像
右上：一般的な超音波画像
右下：硬さを色で表現した超音波画像



シーメンス社製ハイエンド超音波画像診断装置